

令和4年度

全国学力・学習状況調査

能代市分析結果



能代市教育委員会

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

小学校6年生、中学校3年生

(3) 調査の内容

① 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- ・小学校調査：国語、算数、理科
- ・中学校調査：国語、数学、理科

② 質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

(4) 調査の方式

悉皆調査



(5) 調査期日

令和4年4月19日(火)

(6) 調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学校数	学校数（実施率）	実施児童生徒数
小学校	7校	7校（100%）	308人
中学校	6校	6校（100%）	329人

2. 教科に関する調査結果

< 概要について >

小・中学校とも良好な状況です。

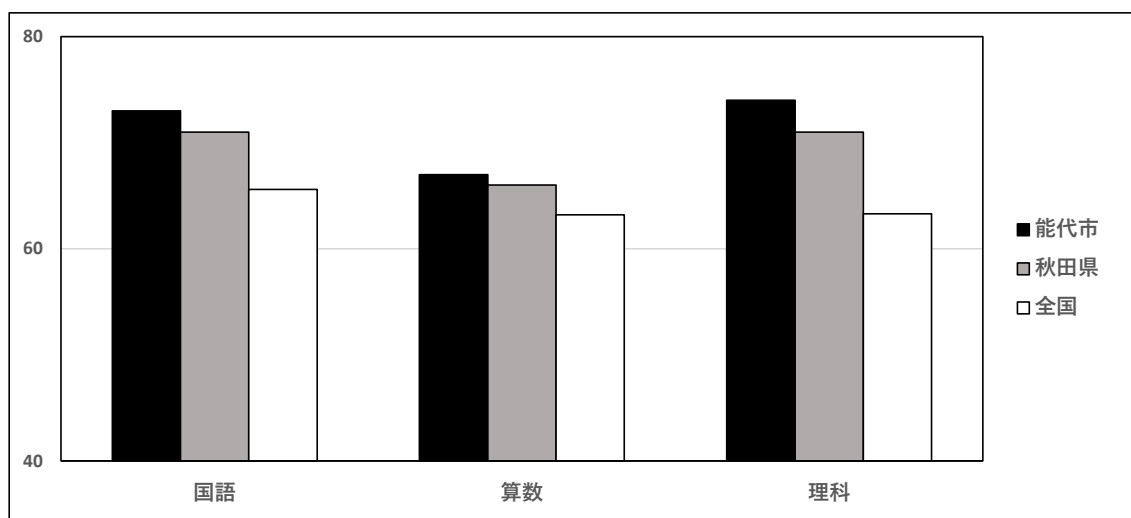
(1) 全国比較について

小・中学校ともに、国語、算数・数学、理科、全てで全国平均を上回っています。

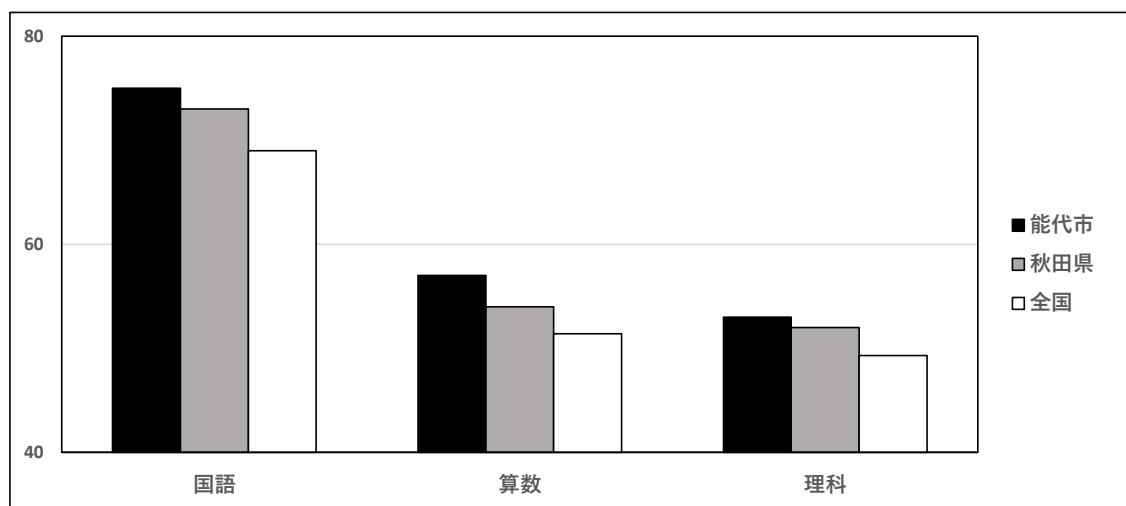
(2) 秋田県比較について

小・中学校ともに、国語、算数・数学、理科、全てで秋田県平均を上回っています。

(3) 小学校6年生平均正答率 (%)

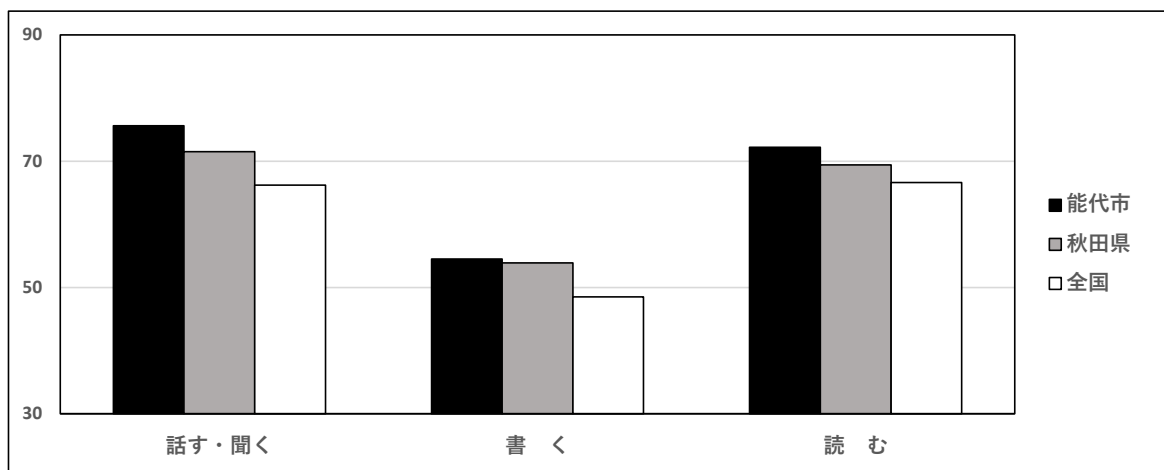


(4) 中学校3年生平均正答率 (%)



3. 教科に関する調査結果(小 国語)

< 小学校国語について >



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です。

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、11問が全国及び秋田県平均を上回っています。



学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題では、前年同様、全国及び秋田県平均を大きく上回りました。

【設問3三ア、イ】

更なる向上を目指して

- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける問題 【設問3二】
- 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く問題 【設問3四】



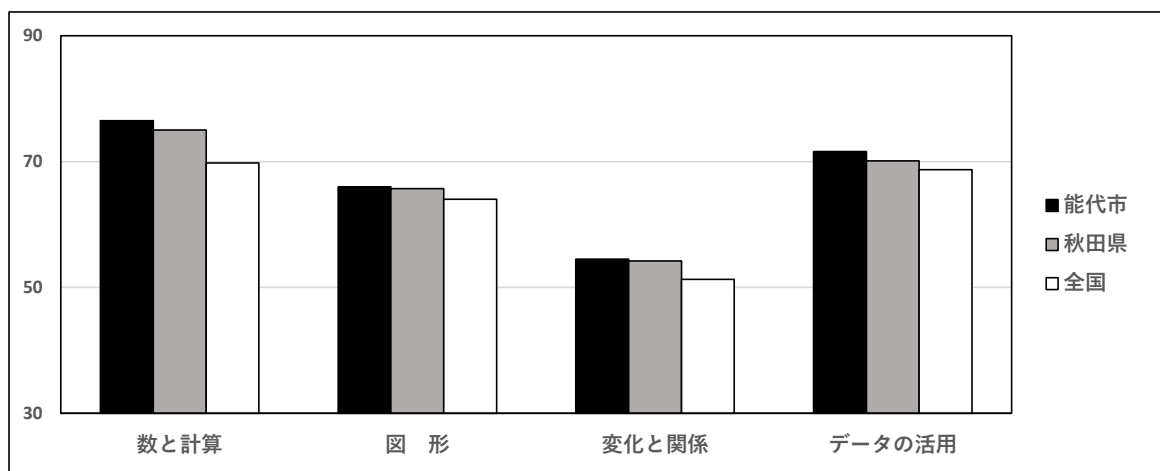
指導のポイント

- 自分たちだけで文章全体の構成や展開について伝え合うことが難しい状況が多く見られる場合は、最初に学級全体で伝え合いの観点を確認してから、ペアやグループの活動に入る方法が考えられます。一方で、ペアやグループでの伝え合いを終えた後に伝え合ったことを学級全体で交流することが効果的な場合もあります。
- 相手にとって読みやすいかということを意識して書くことを指導することが重要です。漢字や仮名の大きさや配列に注意して書く場面を設定すると効果的です。毛筆で学習したことを日常生活で生かすことを意識できるように指導することも大切です。

【参考】令和4年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果(小 算数)

< 小学校算数について >



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です。

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全16問中、11問が全国及び秋田県平均を上回っています。



加法と減法の混合したポイント数の求め方を解釈し、他の場合のポイント数の求め方と答えを記述する問題で全国及び秋田県平均を大きく上回りました。
【設問3(4)】

更なる向上を目指して

- 示された場合において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題 【設問1(4)】
- 数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかをみる問題 【設問2(3)】



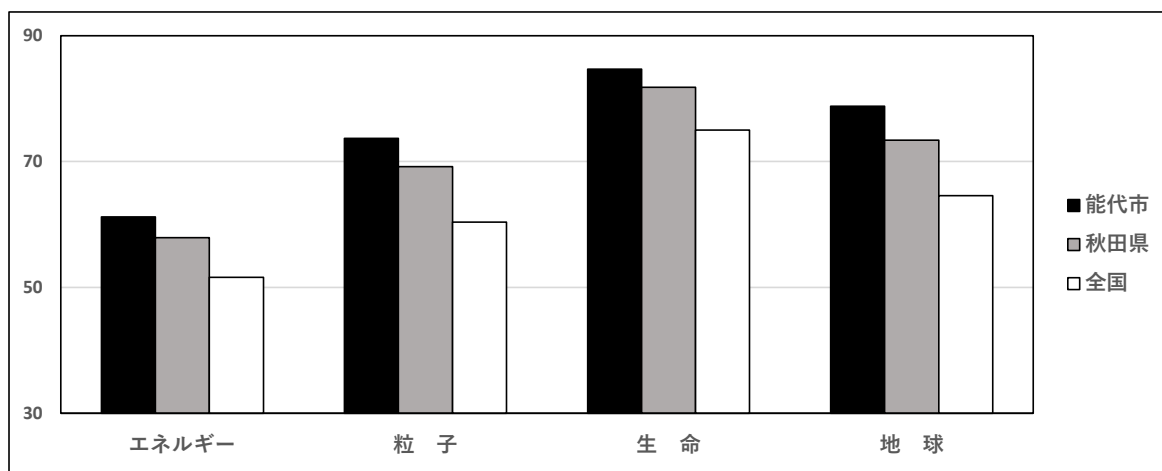
指導のポイント

- 一方の数を大きくみてもう一方の数を小さくみる概算は、実際の数の積より結果が大きくなる場合と小さくなる場合がありますが、両方の数を小さく見る概算は実際の数の積より結果が必ず小さくなることについて、図を用いて、筋道を立てて考え、結論付けることができるようにすることが大切です。
- 果汁が含まれている飲み物を二つに等しく分けても、飲み物の濃さは変わらないという生活経験を想起しながら、飲み物の量に対する果汁の量の割合は変わらないと判断する活動が考えられます。生活経験を基にした判断と、飲み物の量に対する果汁の量の割合を計算で求めた結果を関連付けて考えることができるようにすることが大切です。

【参考】令和4年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果(小 理科)

< 小学校理科について >



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です。

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全17問中、全ての問題で全国及び秋田県平均を上回っています。



観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもつ問題や、水が水蒸気になって空気中に含まれていることを理解しているかをみる問題で全国及び秋田県平均を大きく上回りました。

【設問1(5)、設問4(4)】

更なる向上を目指して

- 日光は直進することを理解しているかをみる問題 【設問3(1)】
- 実験で得た結果を、問題の視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題

【設問3(4)】



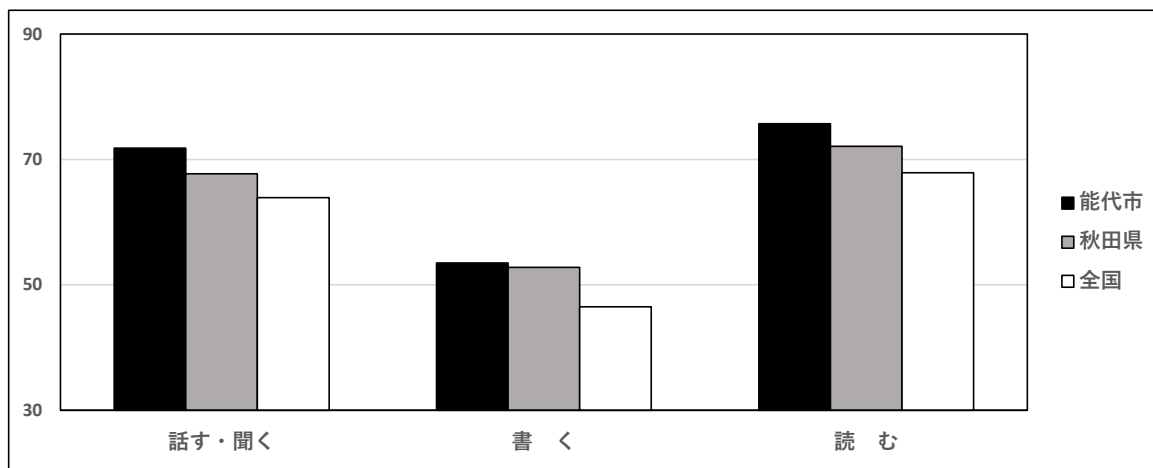
指導のポイント

- はね返した日光を地面に当てたり、はね返した日光の間に紙を入れたりするなどして、主体的に問題解決をする中で、はね返した日光が直進することを捉え、本設問のような場面を説明する学習活動が考えられます。
- 問題に対するまとめを行う際に、結果を具体的な数値として学級内で共有し何を結論の根拠としているのかを明らかにし、より妥当な考えをつくりだす学習活動が考えられます。結論の根拠の記述例を示し、適切なものを選ぶことができるようにするという活動も考えられます。

【参考】令和4年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果(中国語)

< 中学校国語について >



※ 言語事項→伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です。

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、13問が全国及び秋田県平均を上回っています。



自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する問題や、表現の技法について理解しているかをみる問題で全国及び秋田県平均を大きく上回りました。【設問1三、3一】

更なる向上を目指して

- ・文脈に即して漢字を正しく書く問題 【設問2二①】
- ・行書の特徴を理解しているかをみる問題 【設問4一】



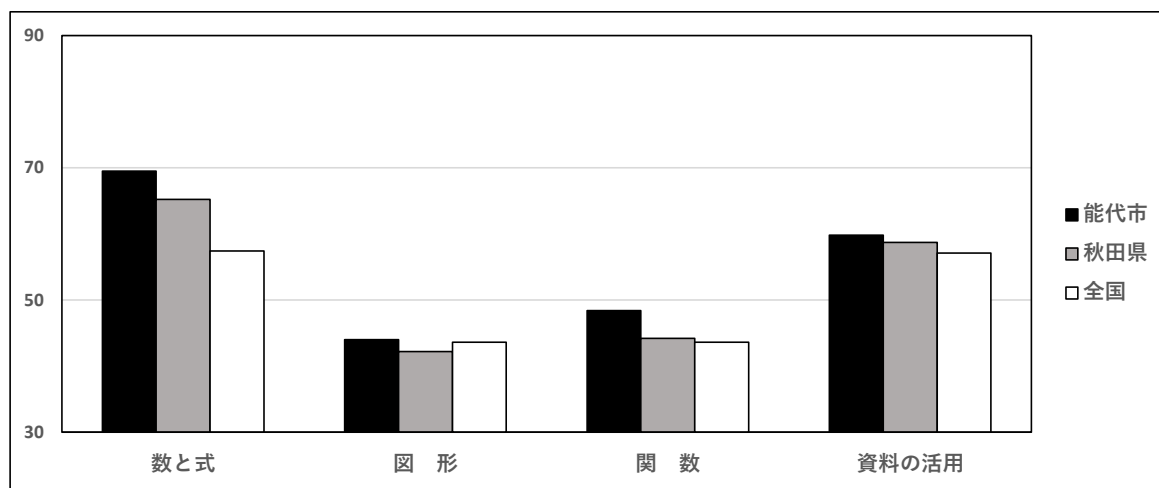
指導のポイント

- ・文章の中ばかりではなく、「A話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識するようにすることが大切です。実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣を養うことも大切です。その際必要に応じて辞書を引くことを習慣付けることが有効です。
- ・同じ文字を楷書で書いたものと行書で書いたものとを比較したり、点画の連続や点画の省略、筆順の変化等の行書の特徴が、実際に行書で書いた文字のどの部分に表れているのかを確かめたりする学習活動が考えられます。

【参考】令和4年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果(中 数学)

< 中学校数学について >



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域において良好な状況です。

全ての領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全14問中、11問が全国及び秋田県平均を上回っています。



自然数を素数の積で表す問題
や一次関数の変化の割合に関する
問題で全国及び秋田県平均を
大きく上回りました。

【設問1、設問4】

更なる向上を目指して

- 証明の根拠として用いられている
三角形の合同条件に関する問題
【設問9(1)】
- 筋道を立てて考え、事柄が成り立
つ理由を証明する問題
【設問9(2)】



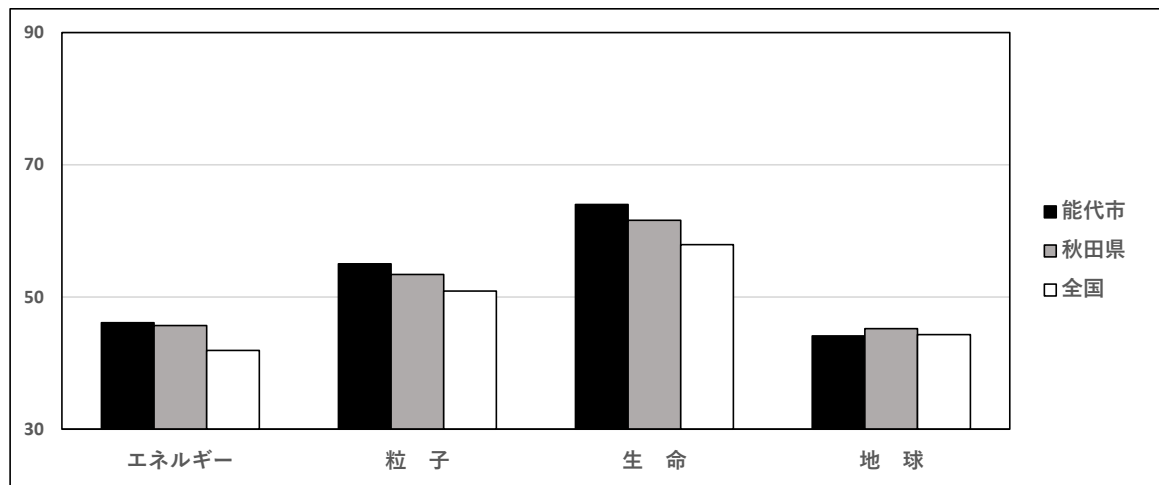
指導のポイント

- 証明を読み、結論を示すために仮定や
図形の性質がどのように用いられてい
るかを確認する場面を設定し、証明の
根拠として用いられている三角形の合
同条件を指摘できるように指導するこ
とが大切です。
- 結論を導くために何が分かればよいか
を明らかにしたり、与えられた条件を
整理したり、着目すべき性質や関係を見
だし、事柄が成り立つ理由を、筋道
を立てて考えたりする活動を取り入
れ、数学的に説明できるように指導す
ることが大切です。

【参考】令和4年度全国学力・学習状況調査報告書

3. 教科に関する調査結果(中 理科)

< 中学校理科について >



(1) 領域別平均正答率の結果について

全ての領域においておおむね良好な状況です。

3つの領域で全国平均、秋田県平均を上回っています。

(2) 設問別平均正答率の結果と課題等について

全21問中、14問が全国及び秋田県平均を上回っています。



未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる問題で全国及び秋田県平均を大きく上回りました。

【設問8(3)】

更なる向上を目指して

- 日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる問題 【設問1(1)】
- 継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる問題 【設問2(2)】



指導のポイント

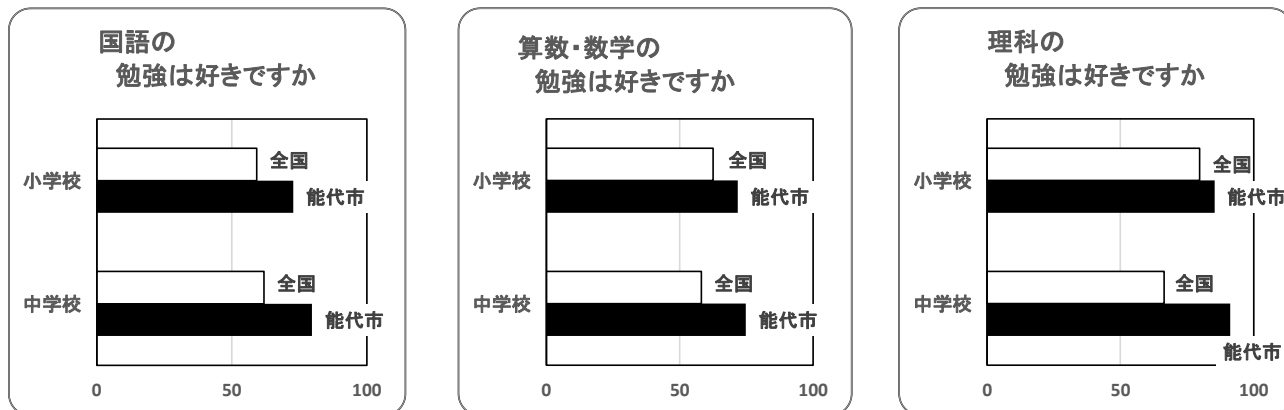
- 日常生活の動作の中で発生する静電気の性質により引き起こされる現象や、静電気を利用したものを静電気の性質と関連付けて説明する学習場面を設定することが考えられます。その際、帯電と放電に分けて整理することが重要です。
- 校庭にある百葉箱の観測データと、タブレット型端末で空の様子を撮影した画像を、天気図と関連付けて考察する学習場面を設定することが考えられます。その際、複数の観測データから読み取った情報を総合し、分析して解釈できるようにすることも重要です。

【参考】令和4年度全国学力・学習状況調査報告書

4. 質問紙調査結果①（授業づくり）

（1）国語、算数・数学、理科に対する関心・意欲・態度

各教科に対する関心や意欲が高い児童生徒の割合が全国平均と比べて高い。

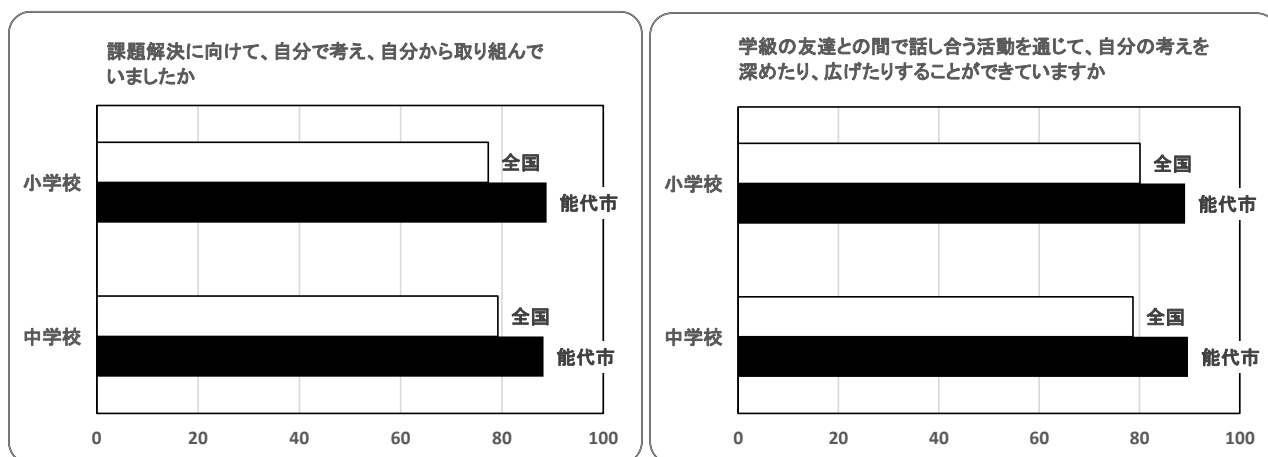


「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

小学校の国語、算数、理科、中学校の国語、数学、理科ともに、全国平均を上回っています。また、「授業の内容はよく分かりますか」についても、それぞれの教科で全国平均を上回っています。

（2）授業中での児童生徒の意識

- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童生徒の割合が全国平均を上回っている。
- ・学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている児童生徒の割合が全国平均より高い。



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合 (%)

小・中学校ともに、全国平均を上回っています。各教科において秋田の探究型授業が定着し、主体的で対話的な深い学びが展開されていることがうかがえます。

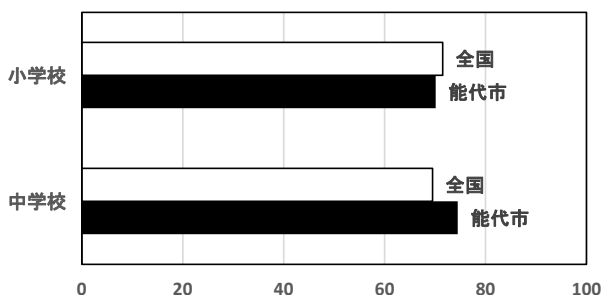
4. 質問紙調査結果② (家庭の教育等)

(1) 家庭における約束・ルール

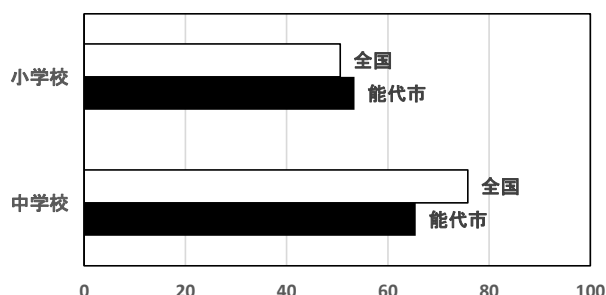
スマートフォン等の約束を守っている小学生の割合は全国平均をわずかに下回っている。

普段、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などを1日当たり1時間以上する小学生の割合が全国平均を上回っている。

携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束を守っていますか



普段、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などを1日当たり1時間以上しますか



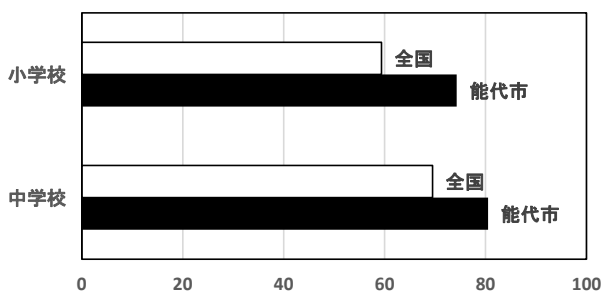
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合(%)

携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方や時間等の約束やルールは、親子でお互いに納得した上で決めることが大切です。決めた約束やルールについても、現状や実態に依りて、見直すことも考えていきたいものです。

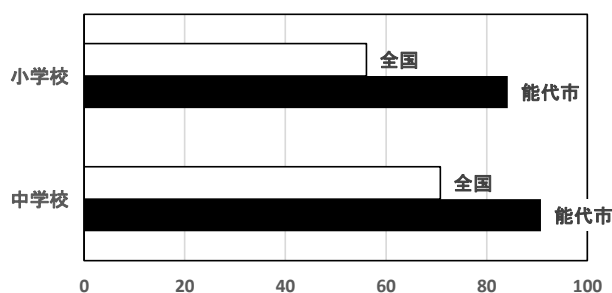
(2) 家庭での学習時間

- ・ 平日1時間以上勉強する児童生徒の割合は全国平均より高い。
- ・ 休日1時間以上勉強する児童生徒の割合は全国平均より高い。
- ・ 平日、休日ともに1時間以上勉強する割合は、小学校から中学校で増加している。

学校がある日(平日)、1日1時間以上、勉強をしますか



学校がない日(休日)、1日1時間以上勉強をしますか



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合(%)

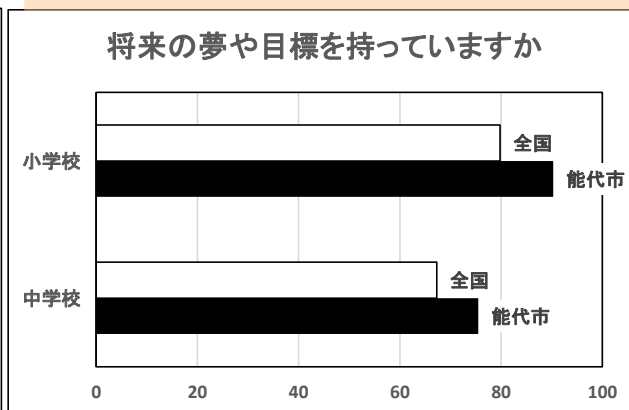
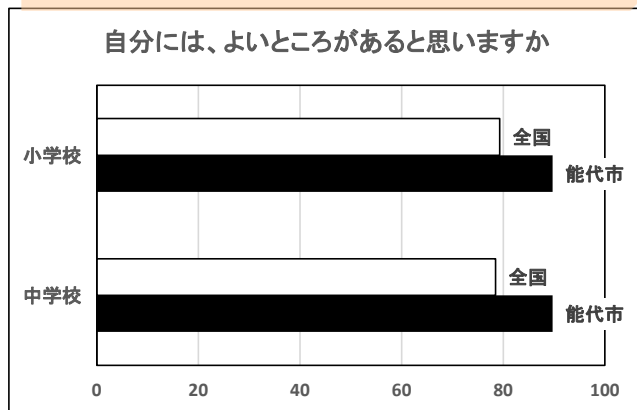
家庭学習の定着に向けて、各校で工夫した取組が見られます。今後も家庭と連携しながら、継続的に指導することが大切です。

4. 質問紙調査結果③ (ふるさと・キャリア)

(1) 自己肯定感、キャリア形成

自分にはよいところがあると思っている児童生徒が9割近くいる。

将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合は全国平均より高い。



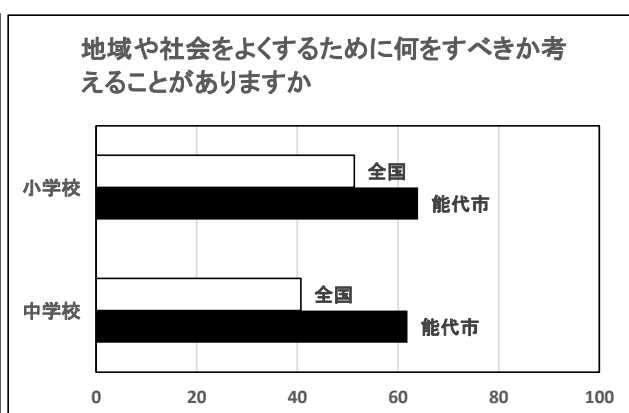
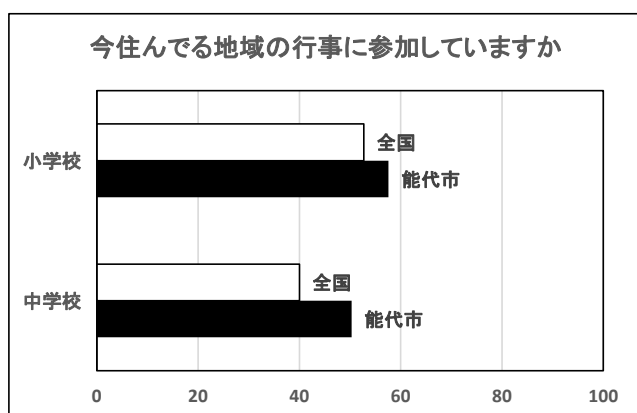
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合(%)

授業や学校行事等で、児童生徒一人一人が活躍できる場や他者から褒められたり認められたりする場を意図的に設定し、自己肯定感の醸成やキャリア教育の充実に努めていくことが大切です。

(2) 地域との関わり、地域貢献

地域の行事等に参加している児童生徒の割合は全国平均より高い。

地域をよくするために何をすべきか考えている児童生徒が全国平均より多い。



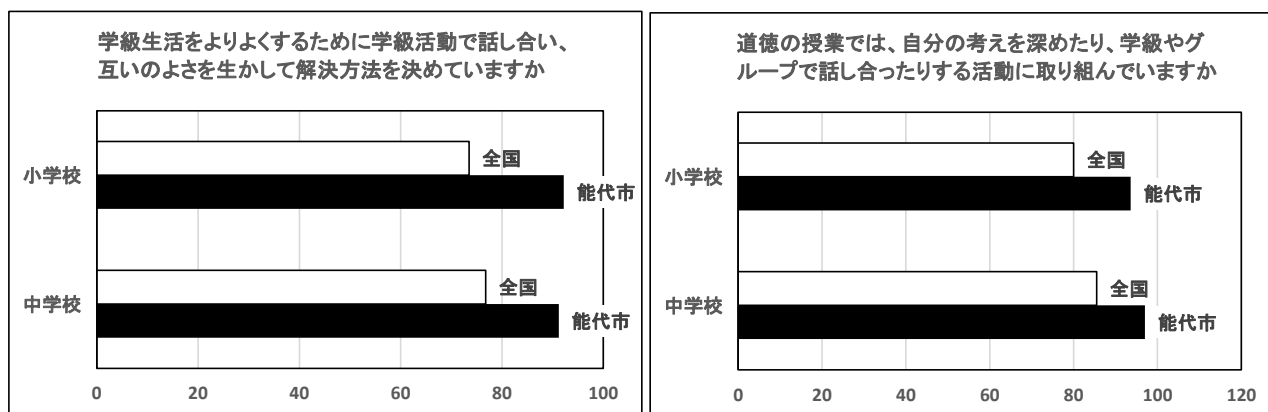
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合(%)

小・中学校ともに、全国平均を上回っています。地域の方に協力していただきながらの学習活動が多く取り入れられ、地域理解や地域について考える機会となっています。学習を通して地域や社会に関わろうとする意欲の高まりが感じられます。

4. 質問紙調査結果④（話し合い・ICT）

（1）話し合い活動

学級生活をよくするための話し合いや、考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる児童生徒の割合が全国平均に比べ高い。



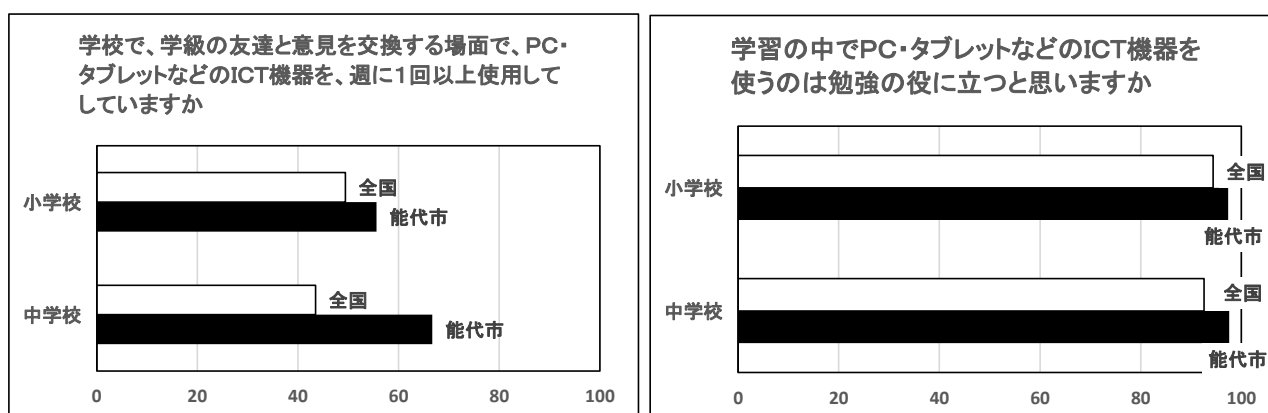
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合(%)

各教科同様、特別活動や道徳等でも、互いの意見のよさを認め合いながら話し合う活動が取り入れられています。自分の意見や考えを押し通すのではなく、折り合いを付けながらの話し合い活動が進められています。

（2）授業におけるICTの活用

「調べる」「意見交換」「まとめ」「発表」の各授業場面でICT機器の活用が図られている。

ICTの活用が勉強に役立つと考えている児童生徒が多い。



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合(%)

タブレット型端末の本格的運用2年目となり、効果的な活用が図られるようになってきています。秋田の探究型授業にICTをうまく機能させながら児童生徒の学びを深めていきたいものです。